<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>地域とつながる歴史学</td><td rowspan="5">担当教員</td><td rowspan="5">桃木　至朗</td></tr>
<tr><td>必修の区分</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>1 単位</td></tr>
<tr><td>授業の方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td>1・2 年 第 2 クォーター</td></tr>
<tr><td>講義内容</td><td colspan="3">①歴史とは何でそれを知ったり考えることは現代人にとってどんな意味があるのか、歴史学とは何をどうする学問か、それは歴史小説などの創作や「トンデモ史学」とどこで区別されるかなどの基礎について講義する。
②文化や芸術・芸能を主な例として、地域の歴史、日本の歴史、世界の歴史などを別物として切り離さず一体のものとして、しかも地域の未来など現代社会のいろいろな課題につながったものとして講義する。
③それらについて課題を提示し、受講生のグループワーク・発表や討論をおこなう。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="3">(1)歴史はわかってしまった過去のことをただ暗記するだけだ、そんなものは現代の役に立たないし金にもならない、などの「都市伝説」の間違いを理解する。
(2)創作やフェイクとしての「物語」と、事実にもとづく解釈の一種としての「歴史」を（前者は無価値ではないのだが）区別する力を身につける。
(3)それらの土台の上で、地域の歴史、日本の歴史、世界の歴史などを結びつけて理解したり、歴史と文化・芸能を材料にして地域・日本・世界の人々をつなげる方法を考える。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="3">1. イントロダクション：歴史を学ぶとは何を何のために学ぶのか？
それは何をどうやって明らかにするものか？
2. 歴史学と文学・ドラマや「トンデモ史学」はどこが違うか？
文学・ドラマやマンガ・アニメはどんな意味をもつか？
3. 世界史（グローバルヒストリー）は日本や地域に関係ない遠い世界の話か？
地域の歴史は単なる日本史の一部か？
4. 外国人イコール英語を話す金髪青い目の白人？
われわれは東アジアの歴史と文化をこんなに知らなくてなぜ許されるのか？
5. 文化・芸術・芸能史は歴史の何を明らかにできるのか？
それは世界と地域に何をもたらしうるか？
6. まとめ：観光・地域と文化・芸能を歴史から考えよう</td></tr>
<tr><td>事前･事後学習</td><td colspan="3">(事前)授業開始前に、簡単でいいので地元の歴史遺跡とか博物館などの概要を調べておく。指定教科書の序章と終章に目を通しておく。

（事後）その日の内容を翌日までに要約・整理しておく。全体終了後に、講義内容の印象に残った部分を選び、文化・芸術など地域での活動に結びつけるシナリオ（イベントの企画書、劇のシナリオなど何でもよい）を書いてみよう。</td></tr>
</table>

テキスト	大阪大学歴史教育研究会（編）『市民のための世界史　改訂版』（大阪大学出版会、2024 年）
参考文献	中学校歴史、高校の世界史・日本史の教科書や資料集はどれでも役立つでしょう。
成績評価の 基 準	授業参加（発言・討論・コメントシートなど）を 50%、授業後のレポート（上の「事後学習」に関連したテーマ・形式を講義中に指示します）を 50%の割合で評価します。
履修上の注意 履修要件	高校世界史を履修したかどうかは問いません。むしろ中学レベルの日本史と世界史の知識の確認がしばしば必要になります。
実践的教育	該当しない。
備考欄	履修者が定員を超過した場合、抽選を行う。